

# My Page

## Contents

▼巻頭特集  
「知事を囲んで地域づくりを語る」

▼地域レポート  
「西尾元気の里推進協議会」  
「ふるさと21青年塾」

▼交流とネットワーク  
「地域づくり団体  
全国研修交流会」  
「自治体学会」

▼石川の地域づくり  
「アトランダム」

▼地域づくり講座  
「地域を面白く  
するぞ!」の  
ご案内

1997  
VOL. 1  
NOVEMBER

情報誌  
創刊号

笑  
う  
門

楽しく、明るく、  
元気よく。  
地域づくりを  
エンジョイしましょう。

には福来る!



# 地域づくりを語る

知事を囲んで

平成9年9月27日  
於:文教会館



平成9年9月27日、地域づくり推進協議会の有志が知事を囲んで懇談の場を持ちました。始めての試みでしたが、終始なごやかな雰囲気の中、知事の地域づくりについてのお考えをうかがうことができました。以下にその内容をご紹介いたします。

出席者:谷本知事、毎田雄一、林 弥子、山田一二、池田哲三、二谷むら子、高峰博保

**高峰**■本日は、情報部会のメンバーを中心に集まつていただきましたが、知事を囲んで率直な意見交換をしてまいりたいと思います。まず、最初に参加メンバーから自己紹介とそれぞれの活動を簡単に話して下さい。情報部会長の毎田さんからお願いします。

## 【 参 加 型 の 町 づ く り 】

**毎田**■情報部会としては「マイ・ページ」という情報誌を1回出した程度です。それを作るために、能登や、加賀に出かけたり、県外にも取材に行ってきています。私はワークショップ・イン・小松という団体の事務局をしています。参加型の町づくりの全国交流会を小松で、昨年、今年と開催しています。シンポジウムではなく、ワークショップの形式で、市内何カ所かの地域に分かれ、その地域に特有の問題を話し合うという方法をとっています。ワークショップ・イン・小松は参加型のまちづくりとワークショップという手法にこだわっているんですが、目標が二つあります。一つは市民と行政、企業のパートナーシップの形成、もう一つはパートナーシップの形成のためには市民が力を蓄えなくてはいけない。そのためには、全国的なネットワークを市民自身がもっていくことではないかと考えています。

**知事**■行政が何かやってくれるといっている間は駄目ですね。自分達でどうするかという方向性を出して、こういう方向性で行くから行政も応援してくれということでないといけませんね。行政に頼めば、何か考へてくれるだろう。それでやっていると手遅れになる。

**毎田**■私はコマニーという会社に勤めていまして、コミュニケーションデザイン研究室にいます。人についての研究をしています。人だったら、町でしょう、生活者と一緒にまちづくりをやりたいということで、企業としてまちづくりについて出来ることはあるはずだと思っています。

**知事**■地域の企業内のいろんな人材を活用することですね。デザイナーとか、いろんなセンスをもった人がいるでしょう。

地域づくりに引っぱり出すことです。そういう人は発想力が豊かなんですね。感性豊かな人材を役所も有効に活用しないといけない。そういう人材がたくさん眠っているんでは。

## 交 流 が 文 化 を 育 む

**林**■加賀市のまれびとピア懇話会の林です。“まれびと”というのはお客人という意味です。単に観光客ということではなくて、何度か足を運んでいただくことによって、お互いが持っている情報を交換しあったり、相互交流していただくことによって仲間になつていただくという会です。何度もやつてきていただることによって、自分達の地域の良いところや悪いところを教えてもらい、より魅力的なまちづくりを目指しています。フードピア金沢が始まった時に加賀市でフードピア金沢イン加賀市をやろうということで加賀でフードピアを始めたんです。第4回の講師がフランソワーズ・モレシャンさんで、加賀市が非常に気に入られて、こういうところでアトリエをもちたいということから、まれびとピア懇話会を設立し、アトリエを用意したんです。モレシャンさんがお越しになつた時に寺小屋形式でモレシャン塾が始まりました。モレシャンさんの知り合いの方に一緒にお越しいただき、膝を突き合わせていろんなお話をさせていただいている。

**知事**■外部の人たちからいろいろな刺激を得ていただくというのはいいことだと思いますよ。加賀市の人と話していく、あれつと思ったのは、“加賀市”ということが出てこないことです。「どちらですか」とかがうと、大聖寺とか、山代、あるいは片山津というふうに、地区の名前で言われる人が多い。加賀市民としてのアイデンティティがないのかなと思ってしまう。加賀市全体でアイデンティティを作ることが大切で、その際に外部から来られた方から、加賀市がどのように見えるかを教えていただくことはいいことですよ。前田利家公が400年前に入ってきて、今で言うと交流が盛んに行われて新しい文化が築かれてきたのです。加賀百万石の伝統文化というのも、交流の成果なのですね。ただ守っていくだけでは



その文化は100年後には滅んでいるかも知れない。新しいものをいれていくことです。

**林**まれびとたちの遺産ということでは石川の伝統文化がつなげると思うんです。交流こそが文化の活路みたいなどころがあると思って、頑張っているんです。もれしゃん塾は今年から独立しまして、まれびとビア懇話会は加賀にこだわって活動していくとしています。

**知事**石川県内でもいろんな活動をしている人がいるんだが、交流とか、横の連携は弱い状況にあるのではないか。お互いに情報交換をしたり、切磋琢磨したりする場というのにならぬか出来ない。行政はそのような方々の出会いの場を作るコーディネートは出来る。県民の皆さんと話していると、自分はボランティア活動をしたいのだけれど、どういった活動があるのか分からぬということがよく出ます。そのような方のための出会いの場を行政として作ろうということで「ボランティアセンター」をつくる計画です。

## [ 地域の魅力の再発見から ]

**山田**金沢でも山の手の内川で活動しています。きっかけは産業廃棄物処分場建設設計画が持ち上がった時に、すでに一つあつたんですが、なんかおかしいのじゃないかということでき議論したところからスタートしました。

結果として、地域の総意として撤退していただくことになった。その時にやっと、自然って大事なんやなとか、すごくいい自然が残っているんやなとか、ということをある程度の人が気付いてくれた。もう一つは若者たちが地域にいかに愛着がないか、地域のことを考えていないかということを痛切に感じたんですよ。それで、何人かが集まって、地域の魅力づくりをやらないといけないんじゃないかということで、地域の魅力の再発見ということで、何ができるかということなんです。地域に何人かの作家の方がいるので、そのような方の参加も得て、お寺や神社でギャラリーをやろうということ、「鎮守の森ギャラリー」というイベントを平成4年から始めて、今年で5回目です。作家の方にはボランティアで協力してもらっています。お寺でコンサートを開いたり、わいわい交流塾という食談をやったりしています。



谷本知事

**知事**自然の良さ、豊かな自然を活用していく風という風に考えていいかといけないね。地域の持っているいいものを掘り起こしていく、それをどう現代風に磨きをかけていくか、そういうことが大事なんですね。

**山田**参加していただいている作家の方からは作品だけでなく、いろんな面でアドバイスをいただいている。

**知事**三人寄れば文殊の知恵ではないですが、異なる地域の方が集まって議論することにより、新しいアイデアや知恵が生まれる可能性が強いですよね。

## まちづくり・人づくり・心づくり

**池田**昨年はカレンダーの件では知事室までお招きいただき、ありがとうございました。私たちの活動は21世紀に向けての人材づくりを主眼として、40代までの青年層で構成しています。「まちづくり・人づくり・心づくり」を3本柱にして、活動しています。今年度は写真の募集をしています。資金が集まれば、カレンダーをまた作りたいと考えています。それとは別に、平面の夢マップを作つてあるのですが、これを立体にしようということで取り組んでいます。近未来の町はこんな姿ではないかという提案をしたいと考えています。金沢美大の学生に協力いただいて、進めています。

**知事**具体的な目標をもつて取り組むということは大事なことやね。若い人達が能登を将来どうしたらいいかという議論をして、何でもいいから目標を作つて結集できることが重要ですね。



池田雄一



林弥子

## [ ハーブによる町づくり ]

**二谷**嫁いで何もしていなければ、遊んでいるというところで、忍んでいた時期もあったんですが、たまたまハーブに出会つて、ハーブを使って町を活性化できないかということで取り組んでいます。情報があればもっと身近にハーブを感じられるのではないかなど、ハーブの会を開いて、発信ができる会にしたいなと始めました。ガーテンを作ろうと牧場を借りて、開墾から始めて作りました。これが生き方の原点なんじゃないかなというふうに思い始めたんです。子供たちに対しても、生き方を見せるのが一番じゃないかと思うようになりました。13人のメンバーのうち、4人が町外から参加してくれています。出る杭は打たれるといいますが、杭は出すぎてしまえば、打ちようがなくなるという発想で思い切ってやろうと話し合っています。現状では販路がみあたらないことが問題なんです。

**知事**何でハーブに着目されたの?

**二谷**子供が、一つにもならないときに「この草いいにおい」といったんですね。自然のくれたものの素晴らしさというか、ハーブの活力というか、そういうものが自分でいいなと思ったんです。それが町づくりとかに発展してきたんです。



内田一三



二谷ひら子

## [ 地域の個性を活かす ]

**知事**尾口村などとも交流を深めていただいて、情報を得ていくことも大切ですね。県内のハーブづくりをしているところとネットワークを作つて情報交換をしながら、一緒に作つていけばいいんじゃないですか。

自治体も中央集権から地方分権へと進んでおり、効率一辺倒から、転換を進めていかねばなりません。これからはそれぞれの地域が持つている個性をどうやって活かしていくか。そして、他の地域にはない取り組みをしていくことが、その地域に住んでいる人の心を豊かにすることにつながるのではないか。地方分権に向けて、これからは地域が権限と責任をもつてやつていくという仕組を作つていかねばなりません。

**高峰**どうもありがとうございました。今後もこのような機会を是非お作り下さい。多くの県民は知事さんと直接話してみたいと思っています。特に地域づくりに関わっている人は、県のトップリーダーがどのような夢を描いておられるかについて関心が高いはずです。



池田哲三



高峰博保

# 「地域」

AREA

REPORT

## 1 レポート

### 西尾元気の里推進協議会

連絡先■小松市沢町ホ15-1 〒923-01

TEL0761-41-1910(田中武保)

#### 地域交流会「元気に暮らそう自然の中で」 ～小松市西尾地区にて～

8月10日、小松市の中山間地である西尾地区において、地元住民のほか金沢市内川や門前町、小松市内に住む市民らによる地域交流会が開かれました。テーマは、過疎地における地域づくりです。

まず、1時間ほどかけて尾小屋鉱山資料館や西俣自然教室など西尾地区の中を見て回った後、西尾地区的印象や過疎地の抱える問題点とその解決策についてグループに分かれて話し合いを行ないました。

西尾地区的印象では、「まちから意外と近い」「きれいな空き家がある」「昔のイメージが残っている」「古い神社や蔵があるのに活かせてない」などの特徴が語されました。また、過疎地の問題点とその解決策については、「道路が良くなって人が出ていった」と人口の減少が一番の悩みとして出されたのに対して、門前や内川からはそれぞれの取り組みが語られました。門前では、金沢からの距離が2時間かかることから「滞在型」を目指してきたということです。門前で別荘を構えた人の中には生活の重心を移してしまい、そば屋でそばを打ち始めた人もいるそうです。次いで、内川からは、「出していく人は仕がないとして、移り住みたい人を受け入れる体制を地元が取ることが大切」という提案が出されました。

また、神社を使ったギャラリーを開くことを通じて内川のファンを増やす取り組みの事例も紹介されました。

さらに、「女性が会合に入りづらいのは男性が悪い。受け入れる体制がないからだ」「元気が無いと言っていると本当に元気が無くなるよ」などの辛辣な意見も出されるなど、活発な話し合いが続きました。大切なのは人が減っていっても残った人が元気であること、そうすればやがて新住民が入ってくるという気づきが、この交流会の成果と言えるようです。

(毎田雄一／ワークショップ・イン・小松)

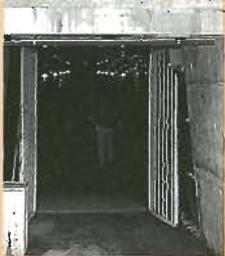
共通する課題を抱える地域の人々が一堂に会し、当面する問題について議論する。

そのような積み重ねにより、新たな展望が開けてくるのでは。

今回のテーマは“過疎”。小松の西尾地区を舞台に、門前、金沢の内川からも参加いただき、率直な話し合いが行われました。



## 尾小屋鉱山資料館にて



## 元気な新しい風を

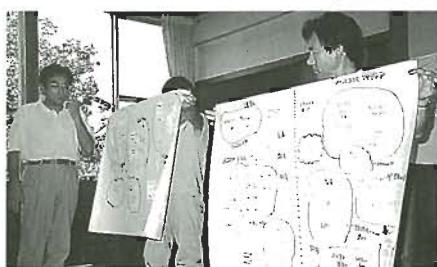
暑い、暑い日でした。川の辺の公民館なのに、風もなく、とにかく暑い日でした。

まずは西尾ウォッキング。尾小屋鉱山の中の心地良い冷たさは、何よりのおもてなしだと感激しました。私は西尾を見て、鉱山と二本の川、神社、蔵が強く印象に残りました。

そして、三つに分かれてワークショップです。その中で、「過疎になって、若い人が住んでいないんです。小松市内まで15分で行ける距離なのにね。どうしたらいいのかね?他の人の目で西尾を見ての意見が聞きたい!!」とのこと。

能登・門前に住んでいる者にとって、とても贅沢な悩みだと思えました。門前は県下一位の高齢社会で、過疎と高齢ということから逃げることはできません。もちろん、この中の生活は厳しいものです。だから、みんなが楽しむゆとりを生み出す生活をと考えています。これからは農山村の生活がきっと見直されてくる世の中になると確信しています。

市内まで15分の位置は羨ましくいいですね。若い人に媚びることをしなくとも、"西尾元気の里"精神でお互いいきいきとしていれば景観までもが素晴らしい感動され、魅力的になります。その為にも、是非女性が元気であってほしいです。西尾も自ずと男性社会であるようにみうけました。「女だから」といつて、でしゃばらないで、ただ利口な女を演じさせられているのです。だけど、女性はすごいですよ。常日頃おとなしくしている分、パワーを蓄積しています。ちょっと突くとバーンとはじけて、不平不満が山程出ます。だけど、女の人は他人の目で西尾を見ているので、たくさん違った感覚の意見が出ます。こうした意見を受け入れられることで、新しい風が吹き、本当の"西尾元気の里"が築かれ、住みたくなるまちになるのではないでしょう。(中野文枝／じんのび悠人)



「**地  
域**  
**AREA  
REPORT**  
**2  
レポート」**

取材という名の交流がこのコーナーの身上です。  
今回は田鶴浜のふるさと21青年塾の  
研修会に押しかけて、研修させていただきました。  
田鶴浜から中島町へと、  
町を越えての移動型の取材となりました。

## ふるさと21青年塾

連絡先 ■鹿島郡田鶴浜町字田鶴浜リ部240番地 TEL0767-68-3838(先川孝一)

### ふるさと21青年塾研修会に参加して

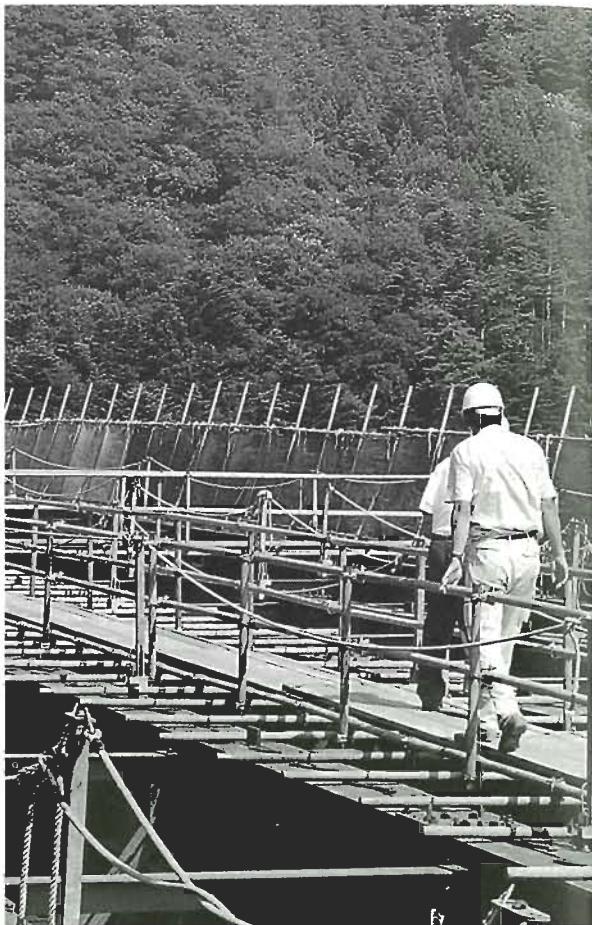
今回は田鶴浜町の「ふるさと21青年塾」の方々を訪ねました。最初に、10年後のふるさとを形にする「立体夢マップ」作成のための能越自動車道の工事現場見学をご一緒させていただきました。田鶴浜ジャンクションの大がかりな工事に驚くと同時に、ロデオの如き車の揺れと目の眩むような高所の作業場所を拝見し、工事に携わっておられる方々の大変さを実感いたしました。

その後、チョットお洒落なレストラン"なかじま亭"で休憩、近くの"万葉俱楽部"で、中島町の村田正明氏より「中島町リゾートビューロー」構想についてお話しを伺いました。全国を見渡しての方針と、しっかりととした構想理念と、成功に導くためのたゆまぬ実践に頭の下がる思いがしました。と同時に行政サイドにこのような的確な視点と熱い想いの方がいらっしゃる町をうらやましく思いました。

ふるさと21青年塾の方々との意見交換も活発に行われ、民間ボランティアの抱える問題点を浮き彫りにしたように思えました。ボランティア活動は楽しんでやれる事が大事であること。異業種間の人達と交流でき、人づくりにも役立つイベントや講演会も行える。更に地域全体を動かすような地域づくりに取り組むには行政や企業と協力して、全体的見地からみた的確な指針と構想と情熱的な行動力が必要とされる。そしてこのような統合的取り組みはその地域、地域によって形態が異なり、画一的に論ぜられず、個々の立場に立っての検討が必要だと感じました。

今後、地域づくり団体が当面する課題や問題点に応えられる組織として石川県地域づくり推進協議会が機能できることを期待しています。

(林 弥子/まれびとピア懇話会)



### 夢を叶えるチャンス

先ず最初に思ったことは、「スタッフに恵まれているな」ということ。根っからの田鶴浜つ子で、人脈、信頼、資金、全て満たされて居ることを感じた。

12名、円卓の騎士たちの顔ぶれは揃っている。男のロマンを追求するには、余にもすぎている。

戦略=人をもって、戦術=心をもって、戦法=技をもって、しかし、この技が見つからない。

惰性ではなく、押し付けでもないそんな気持ちに戻つて“技”を見い出してほしい。「だれにでも夢を叶えるチャンスがある！」そのチャンスを引き出す役に回ることも一つの策では？

(二谷むら子/はあーぶ・どりーむ能愛)





### ふるさと21青年塾から

ふるさと21青年塾は「町・人・心」を活動テーマに田鶴浜町の未来のまちづくりと人材育成を目的として活動している団体です。

平成3年1月に15名で発足し、これまで、町の若者60名が参加しての「創造フォーラムin田鶴浜」や町の将来像を描く「夢マップ」の作成、講演会、座禅会、先進地視察研修会などを開催してきました。

昨年は、町の自然、祭り、記念日などを紹介した「ふるさとカレンダー1997」を500部自主製作し、新成人等に配布しました。

当初は、町の魅力再発見、町のPR、Uターン期待など、いろいろな目的はありました。カレンダー製作過程に大きな成果を得ることができました。塾生たちは、町の記念日を探し、また、普段何気なく見ている景色に季節を感じ、自然のうちに郷土愛が芽生えてきたように思います。



私たちは、「地域のために……」とか、「誰かのために……」というふうに、そう気負わず、常に「自分のためにやる」「自分の趣味でやる」「自分が出来ることをやらせてもらう」というような気楽な気持ちで自己研鑽しようというのが当塾のやり方です。また、何もしないで評価せず、良いと思ったことは出来る限り何でもやってみようというの、塾生の一致した考え方です。これからも、こうした活動の輪を広げ、人づくり、町づくりに取り組んで行きたいと思います。

今回の取材の際に、コーディネーターの方より活動テーマがはつきりしない、こだわりがないとのご指摘がありましたが、私たちのこだわりはハーブや春蘭のように具体的でないかも知れないが、「人」であって、これからも「人」にこだわり続けたいと思います。

ふるさと21青年塾



活動拠点・東嶺寺



# 交流とネットワーク

# 内から外へ

[第7回地域づくり団体全国研修交流会] ●春蘭の里実行委員会

中本安昭／堂谷義和

みんなちがつてみんないい！  
みんなが輝くまちづくり

8月28日、29日の二日間、山口県長門市湯元観光ホテルにて、全国の地域づくりに情熱を燃やす人達約700人が集まり、研修交流会を行った。長門市出身の詩人、金子みすゞさんの童謡から引用された「みんながちがつて、みんないい！みんなが輝くまちづくり」が基調テーマ。特に印象に残った事をまとめてみました。

## 一、地域格差の問題

交流を囲り、お互いの意志をはつきり伝える、行政の力べを乗り越えた協力が必要。

## 二、環境の問題

私達は次の世代に何を残せるか？自然環境の保全とその開発利用方法を探る。これは私達の春蘭の里が基本構想としているテーマ「グリーンストック、水と緑を後世に引き継ごう」に共通している問題でした。自然から教えられるもの、自然の美しさ、力強さを感じ取れる心が大切だということです。

地域にとって必要な人材を伸ばせる環境作り（人材は育成されるものではない）、各地域の人達の協力、特に若い世代の力は必要です。無から有を生じ、有からさらなる有を伸ばす。必要時には行政の力を借りる、他地域との交流を積極的に計り、パートナーシップ型の事業として伸ばして行く。

「みんなちがつてみんないい！みんなが輝くまちづくり」つまり個性をみがき伸ばす事です。キーワードは「自家発電」自ら光り輝く事に努力する。そして、集まり協力し合つて、輝きの輪を広げていく、赤、青、黄、それぞれの色を掲げて。

交流会で知り合つた参加者の皆様、早速お電話、お便り写真等をお寄せいただきありがとうございました。一同頑張ります。

(中本安昭)

県内の交流とネットワークづくりを進めるとともに、全国へ出かけてゆくことも不可欠です。いろんな方が全国的な交流事業に参加してくれること。個々のネットワークが広がり、地域全体では素晴らしい関係を保有できるようになります。今回は、新しく協議会に参加してくれた能都町の春蘭の里実行委員会のメンバーとコーディネーターの赤須さんのレポートです。



## 地域づくり全国交流会に参加して

平成9年8月28日から二日間、全国各地の地域づくり団体の700名が「地域づくり全国交流会」にと山口県は長門市湯元温泉へと集まった。

それが自分の里の自慢を語るべく、また自分達の活動に役立てようと。

さすが、ここに集まる人達は元気者が多い。元気の元を考えると、持ち物がしっかりと手にかかり、足元がしっかりとしているとき、ほんとに力の出し甲斐がある。地域づくりに惚れて、自分の里が好きなそんな人達だ。

自分の里が好き、ごく当然の事である、でも日本の田舎のほとんどが過疎化で悩んでいる。

好きな自分の里がステキな里であるために、仲間をつくり足元をかため、自分の里の良さを探し、惚れて、しっかりと手掛けかりをつかんで、時代の波に流されない技術を身に付けて自分の里の地域づくりをと思っている。

発表者の「地域づくりをして、自分の私づくりになつた」との話を聞き、私には素晴らしいお土産になった。

ありがとうございました。私も「地域づくり全国交流会」に参加して元気者になりました。

(堂谷義和)



# パートナーシップづくりを勇気づける 4つの事例報告「自治体学会参加レポート」



8月30日に群馬県高崎市で開かれた第11回自治体学会に参加しました。第9回から出席し、本年で3回目になります。私たちは「自治体と市民活動のインターフェース」という分科会を選びました。

分科会では滋賀県、神奈川県、鎌倉市、東京都北区の4地区からの事例報告がありました。行政職員と市民団体の代表がペアでパネラーになり、パートナーシップの実例を披露するという趣向です。

このところ、パートナーシップという言葉だけが先行し、それがどんなモノなのか、よく分からなかつたものですから、ここでの議論は参考になりました。結論から言うと、相変わらずパートナーシップなるものの実体は理解できなかつたのですが、少なくとも、それを作りつつある人たちがいて、活動があることは分かりました。パートナーシップは頭で理解するものではなく、活動の中でつくりあげるものようです。

3度目の自治体学会ともなると、こちらにもゆとりが出てきて、NPOの抽象論なら聞き飽きたぞ、などと不遜にも思っていましたが、実践例に触れることが出来て勇気づけられましたし、日本全国に目を向けておく必要性を改めて感じました。

## ■ 滋賀県「淡海ネットワークセンター」

滋賀県では県民の社会活動を支援するためにセンターを設立しましたが、その運営に県民の意見を反映させる仕組みとして運営会議をつくっています。同会議は学識経験者2名（織田直文滋賀短期大学教授と北村裕明滋賀大学教授、おふたりとも石川県出身！）、実践リーダー5名（信濃の大平正道さんほか）、町村職員2名、企業代表1名の計10名で構成されています。

## ■ 「WE LOVE 相模川キャンペーン」

神奈川県では相模川に関わる様々な市民団体に呼びかけ、「WE LOVE 相模川キャンペーン」を始めました。これまで互いに交流の無かつた市民団体もこれを機にネットワークを形成。クリーンキャンペーンに県と市民ネットが共同で取り組み、市民のとりまとめを市民ネットが担当しています。びっくりしたのは、パネラーの川嶋鶴子さんが相模大堰差し止め訴訟で県を訴えている原告の一人であること。原告と被告が仲良く肩を並べて活動報告をしたわけです。いわゆる反対派市民の参加に県は戸惑いながらも、互いに話し合いの場がつかめることにメリットを感じているようでした。

## ■ 鎌倉市「市民がまとめた提言書」

鎌倉市では、市民活動支援のあり方を1年がかりで市民が検討し、市に提言しました。市民団体から委員を公募、13回の委員会、2回の公開勉強会を行い、3月31日に市長に提言。この提言を受けて「NPOセンター鎌倉」も9月1日開設されました。この1年間を振り返り、委員長の藤井さんが、息子のような世代である市の若い担当職員を「戦友のように思える」と語ったのが印象に残りました。

## ■ 東京都北区「リサイクルによる地域づくり」

北区では区民によるリサイクル活動で家庭ゴミの減量化を進めています。町内のリサイクル活動の担い手となるリサイクラーを1年の任期で公募。その経験者が北区リサイクル活動機構をつくり、リサイクル活動を継続。リサイクル活動拠点として「エコ一広場館」を3カ所開設、その管理運営を同機構に委託しています。広場館の情報紙には資源活用市や電気製品の修理をはじめとして、さらながらリサイクルのカルチャーセンターのように、イベントや講習会が毎日開催されていることが記されています。リサイクルを核にした地域づくりが進んでいるようです。



## 石川の地域づくり

# アランダム at random

### まれびとピア懇話会 [加賀市]

連絡先:林 弥子 TEL07617-3-1865

#### ◆活動内容

- 「まれびと(=客人)」との交流を通して
- ①情報交換
- ②仲間づくり
- ③まれびとから見た地元地域の問題点の指摘
- ④地元地域の情報を、まれびとを通じて全国発信等を目的として活動している。

#### ◆1998年度の行事予定

2月14日(土)フードビア金沢in加賀 於加賀「ばん亭」  
講師:市川 森一氏(脚本家)



### ワークショップ IN 小松 [小松市]

連絡先:毎田雄一 TEL0761-21-1014

#### ◆活動内容

- 10月3日(金)~4日(土)、小松市内3地域を舞台に、ワークショップ手法を使った参加型まちづくり全国交流会を行いました。昨年に続いて2度目の全国交流会ですが、今年は演劇ワークショップや、食のワークショップなど、いくつかの新しいワークショップの試みをしました。



### フォーラムふるさと塾 [珠洲市]

連絡先:TEL0768-82-0023(珠洲市立中央公民館)

#### ◆活動内容

- 5月にカラーの植栽を行いました。高齢化に伴い、耕作の厳しい中山間地農業にふさわしい花づくりをと、市と県で試験栽培している株を分けていただきて植えました。
- 8月30日地元アマチュアバンドの演奏の場をと、「ふるさとコンサート」を開催。高校生グループもあり、大盛会でした。珠洲には若い人向けのイベントがないとのアンケートに対しコンサートを企画し、塾生がお金を出し合い、自分たちの手作りで頑張りました。塾生が力を合わせて設営、ライトがついた時には本当に感動しました。バンドの人たちにも喜んでもらえ、やってよかったと、来年への意欲に燃えています。



### 島おこし協議会 [白峰村]

連絡先:山口一男 TEL07617-3-1865

#### ◆活動内容

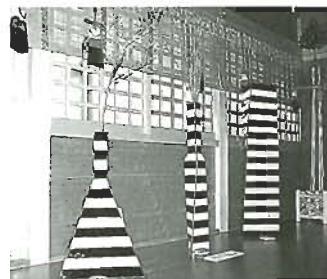
- 生活環境整備を行っています。
- ゴミ問題への取り組み。
  - 花壇づくり。
  - ホタルの増殖と観察。
  - 大嵐山周辺の遊歩道等の管理。

### 日本海内灘砂丘凧の会 [内灘町]

連絡先:高桑久雄 TEL076-253-8241

#### ◆今後の活動予定

「第6回新春凧あげ大会」  
日 時:平成10年1月3日 午前10時~11時  
会 場:内灘海水浴場  
参加者:会員を中心に、70名を募集の予定。  
凧あげで新年を祝う。



### ふるさと21青年塾 [田舎浜町]

連絡先:塾長・先川孝一 TEL0767-68-3838

#### ◆活動内容

夢追い人が集まり、共に語り、共に学び、共に実践し、少しずつ変わっていく。そんな浜からの風をおこしていきたい。

#### ◆今後の活動予定

- 定期会(毎月第2木曜日)
- ふるさと写真コンテスト  
作品展(11月)
- 滋賀県信楽町視察研修会(11月)
- 東嶺寺で座禅会(5月・10月)
- 夢マップ立体化構想



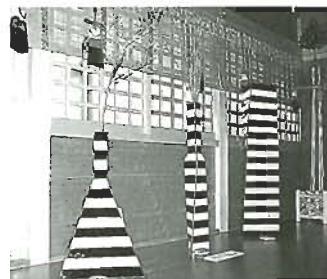
### 内川の自然と未来をつくる会 [金沢市]

連絡先:山田一二 TEL076-241-3065

#### ◆活動内容

人との交流、アートとの交流を通じ、自然と人間のハーモニーを持ちたいと、イベントの開催を通して、小さな町の小さな情報発信を展開しています。

●11月上旬「鎮守の森ギャラリー」なるイベントを毎年開催



### 七尾マリンシティ推進協議会 [七尾市]

連絡先:TEL0767-53-8241

#### ◆活動内容

能登国際テント村「冬編」スクワイド・フェスティバル in 七尾  
テーマ:冬の中の喜び(冬の収穫祭)

日 時:平成10年2月11日(水)11:00~17:00

会 場:能登食祭市場

主 旨:冬という季節に、能登ではたくさんの海の幸に恵まれる。これは、能登の大きな財産である。全国どこの地域よりも豊富で美味しい能登の幸を使って、自分たちの地域の豊かさを実感するとともに、全国に能登の食文化の発信を行う。

# 地域づくり講座「地域を面白くするぞ!」

地域づくり推進協議会運営委員会の

部会長やコーディネーターなどが、自主的に講座を企画開催します。

何が出来るかを実験的に追求しようとするものです。

地域づくりに関心のある方なら、どなたでも参加できます。

企画主催：地域づくりフォーラム

●部会長

大湯章吉、坂本 勝、毎田雄一

●コーディネーター

赤須治郎、伊藤数子、川畑 明、高峰博保、濱 博一

地域づくりフォーラムは地域づくりに積極的に関わろうとするネットワークです。地域づくり推進協議会をベースにしつつ、独自な活動を志向しています。

## の ご 案 内

### 講座のスケジュール

- |                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| ①12月 7日(日)10:00~18:00 | ワークショップ入門講座[担当：毎田]  |
| ②12月20日(土)13:30~17:30 | 女と男の地域づくり講座[担当：高峰]  |
| ③ 1月17日(土)13:30~17:30 | 情報のつくりかた講座[担当：赤須]   |
| ④ 1月18日(日) 9:00~12:30 | 企画書作成入門講座[担当：濱]     |
| ⑤ 2月 7日(土)13:30~16:00 | 手づくり情報発信セミナー[担当：伊藤] |
| ⑥ 2月 8日(日) 9:00~12:30 | 地域解剖入門講座[担当：川畑]     |

### ①ワークショップ入門講座

#### [主旨]

参加者一人一人の思いを大切にして進める参加型まちづくりと市民社会を実現する手段として、ワークショップが注目を集めています。今回は、「まちづくりワークショップ入門講座」として、まちづくりにおける合意形成・コミュニティ形成、ワークショップって何?という構成で行います。

- ◆日 時／平成9年12月7日(日) 10:00~18:00
- ◆構 成／体験学習とレクチャー
- ◆定 員／12名
- ◆講 師／毎田雄一
- ◆参加費／一人 5,000円(材料費・資料代込み、昼食代別)
- ◆会 場／石川県文教館 ※尾山町～尾張町  
金沢市尾山町10-5 TEL076-262-7311



問い合わせ先／毎田雄一：コマニー株式会社 CD研究室 地域開発チーム 小松市工業団地1-93 〒923 TEL0761-21-1014 FAX0761-21-5270 e-mail:y-maida@company.co.jp

### ③情報のつくりかた講座

#### [主旨]

自分たちの活動を周囲にうまく伝えられない、いろんな情報が欲しいけどなかなか手に入らない。地域づくり団体が情報の受発信で困っているケースをよく聞きます。この講座では、伝えたい相手に伝えたいことを確実に伝えるために、基本的に大切なことを実践的に考えていきます。

- ◆日 時／平成10年1月17日(土) 13:30~17:30
- ◆構 成／事例研究、グループ討議と発表、ツールづくり
- ◆参加者／各団体の広報担当者
- ◆進行役／赤須治郎、特別ゲスト(市町村の広報担当)
- ◆参加費／5,000円
- ◆会 場／内灘町サイクリングターミナル  
河北郡内灘町宮坂に1-3 TEL076-286-3766



問い合わせ先／赤須治郎：赤須企画事務所  
金沢市つつじが丘126 〒921 TEL&FAX076-245-7477

### ⑤手づくり情報発信セミナー～自分たちのホームページをつくろう～

#### [主旨]

地域づくりに必要不可欠な情報の受発信。今や、インターネットですぐできます。いつかは、ウチも…。と思っていても、なかなか手がつかないものです。インターネットのアクセスも、ホームページの作り方も、実際パソコンをさわってみると意外と簡単！この機会に体験してみましょう。

- ◆日 時／平成10年2月7日(土) 13:30~16:00
- ◆構 成／簡単インターネット、  
地域情報にアクセス、ホームページづくりに挑戦
- ◆定 員／15名
- ◆講 師／金平 勲 (NTT)
- ◆参加費／3,500円
- ◆会 場／金沢読売会館 金沢市大手町5-30 TEL076-233-4570  
※備考：ホームページに載せたいものがあれば、ご持参ください

問い合わせ先／伊藤数子：(株)バステルラボ  
金沢市藤江南2-1-5 〒920 TEL076-267-6688 FAX076-267-5544

### ②女と男の地域づくり講座

#### [主旨]

地域づくりに関わる人の家が母子家庭のようになるとか、家の中がうまくいかないということが、たびたび言われています。男女の協力なくして、魅力的な地域づくりはできない。夫婦で、家族で参加できる活動を作ろう。

- ◆日 時／平成9年12月20日(土) 13:30~17:30
- ◆構 成／問題提起「肩の力を抜いて」、  
グループディスカッション「愛の地域づくり」
- ◆参加者／20名程度
- ◆進行役／伊藤数子
- ◆参加費／一人 2,000円 ※懇親会は別途3,000円
- ◆会 場／内灘町サイクリングターミナル  
河北郡内灘町宮坂に1-3 TEL076-286-3766

問い合わせ先／高峰博保：(株)クリエイティブ・グルーヴィ  
金沢市弥生1-28-12 〒921 TEL076-243-2215 FAX076-247-8644



### ④企画書作成入門講座～アイデアを実現する第一歩～

#### [講座の目的]

地域づくり活動を行う時、必ず必要になるのが企画書。地域づくりリーダーにとって企画力をつけ、夢を具体化することがまず最初に問われる資質となるでしょう。本講座は「企画とは何か」を学び、「企画書」を作成する基本的作業を体得するためのものです。参加者は、直面する自分のテーマを持ち寄ってください。

- ◆日 時／平成10年1月18日(日) 9:00~12:30
- ◆講座の内容  
1.企画とは何か 2.企画書の作成実践 3.企画を育てる
- ◆講 師／濱 博一
- ◆参加費／5,000円
- ◆会 場／内灘町サイクリングターミナル  
河北郡内灘町宮坂に1-3 TEL076-286-3766



問い合わせ先／濱 博一：(株)アスリック  
金沢市若松町121街区6番 〒920-11 TEL030-885-9588 FAX076-233-7375

### ⑥地域解剖入門講座～地域づくりを始める前に～

#### [講座の目的]

地域づくり団体のリーダーにとって、活動を始める前に、地域が抱える解決すべき課題や活かすべき資産がある程度把握しておくことは大変重要になります。この講座は「地域解剖入門講座」と題し、主にデータ処理を通じて地域を把握する基本的作業を実践的に体験するものです。

- ◆日 時／平成10年2月8日(日) 9:00~12:30
- ◆講座の内容  
1.地域を解剖するためのデータ探し-1／統計的活用  
2.地域を解剖するためのデータ探し-2／地図の活用  
3.地域を解剖するためのデータ探し-3／住民意向調査の活用
- ◆講 師／濱 博一、川畑 明
- ◆参加費／5,000円



問い合わせ先／川畑 明：(有)ヒューマンネット  
金沢市本江町9-14-201 〒921 TEL076-291-7652 FAX076-291-7682

#### [参加申し込み・問い合わせ先]

高峰博保：(株)クリエイティブ・グルーヴィ TEL076-243-2215 FAX076-247-8644 ※もしくは、各コーディネーター、部会長まで。

## インフォメーション

## 参加しよう！

地域づくりについての催しの案内です。  
ネットワークを広め、  
知的刺激を得るために積極的に出かけてみては。

第2回 北陸市民活動フォーラム  
〔全国の動きから、北陸の市民活動を考える〕

日程：平成9年12月6日[土] 14:00～

会場：石川県文教会館ホール

〔主 催〕

北陸NPO研究会・地域づくりフォーラム  
ワークショップ in 小松問い合わせ先 ● 濱 博一 株式会社アスリック  
金沢市若松町121街区6番 〒920-1165

TEL030-885-9588 FAX076-233-7375

法案成立が地域づくり活動にどのように影響があるのかを  
とにかく知っておくだけでも意義があります。

## 地域づくり団体全国研修交流会

日程：平成10年2月27日[金]・28日[土]

会場：南条文化会館 福井県南条町

〔主 催〕

地域づくり団体全国協議会  
福井県地域づくりネットワーク協議会お隣の福井県で開催されますので、みんなで参加しましょう。  
詳しくは石川県地域づくり推進協議会事務局まで、お問い合わせ下さい。

## BOOK (独断的おすすめ本)



## 松井孝典『150億年の手紙』●徳間書店

グローバルに発想するということが地域づくりで言われるようになって久しい。この本は松井氏の「地球・宇宙・そして人間」シリーズの3冊目の著書であり、宇宙から地球、人間のあり方を考えようとするもの。宇宙の視点から地域を、そして生き方を見つめてみてはいかがでしょうか。歴史の発展を「分化」にあるととらえ、均質化してゆくことは「退化」ではないかという指摘は示唆に富む。



## 高木善之『地球大予測』●総合法令

地域づくりにとっての一つの大きなテーマが環境のこと。すべての生命がつながりあいながら、微妙なバランスの上に成り立っているのが私たちの暮らしなのです。一人一人のライフスタイルを見直すことから価値観の転換を図ることの重要性を訴える内容となっています。著者の中木氏はネットワーク「地球村」の代表で、頻繁に石川県を訪れて講演会等を行っています。

1

地域づくり  
【key word】  
[キーワード]

2

## 「バリアフリー」

空間づくりや住宅関係では最優先課題のようになっている「バリアフリー」。障害物のない状態をいう。最近では、ハンディをもつ人の社会参加を妨げている社会的、制度的、心理的障壁の除去をめざした社会づくりの意味にも使われている。地域づくりにとってのバリアフリーとは？ 地域の中に存在する種々のバリアーにどう取り組むかということ。地域づくり団体という殻に閉じこもることなく多様な個人、団体、企業などとも連携してゆくことが求められている。

## 「複雑系」

正直言って、よく分からるのが「複雑系」という概念です。ただ、今後の地域づくりを考える上では役立ちうなのであえて取り上げてみました。エコロジカルな関係性をどこまでベースにできるか、人や他の生き物、地球などの動的なプロセスをいかに把握するか、世界の全体を掌握しようと試みるための発想として多くのヒントを与えてくれそうです。変化し続ける地域社会をどのようにとらえるか。そこから、活動の方向性が見えてくるのでは。



知

事を囲んで地域づくりについて話す機会を得ることができました。これもこの情報誌というメディアを持っている成果なのかなと思います。協議会に参加の皆さんもこんな人に会いたい、この人と話しをしてみたいという要望があれば、情報部会までお寄せ下さい。一緒に取材に参りましょう。(毎田)

石

川らしい地域づくりって？何だろう。地域の歴史や文化を踏まえつつ、新しい要素を加えてゆく。多面的に眺め、深く考える。議論を重ね、社会的な活動を継続すること。メンバー以外の人をどれだけ動かせるかが、活動の魅力をはかるポイントです。独自の実践的哲学を構築することが求められています。(高峰)

石川県地域づくり推進協議会  
情報誌刊号「My Page」Vol.1

1997年11月発行

●発行

石川県地域づくり推進協議会  
金沢市広坂2-1-1 〒920-80  
石川県庁総務部地方課  
TEL 076-223-9057  
FAX 076-223-9486

●編集

石川県地域づくり推進協議会 情報部会